

重度障害者をGHで支援する

重症心身障害者とは、「重度の肢体不自由者、又は重度の知的障害、若しくは精神障害により、行動上著しい困難を有する者であって、常時介護を要する障害者」と規定されています。重症心身障害者を支援する福祉事業所、GHは県内でも僅かしかありません。今号では経験や技術だけでなく、想いを持って重症心身障害者の支援に取り組む事業所の生活介護とGHを見学し、インタビューを行いました。



ご自身のお子様も重症心身障害をお持ちで、親としての想いを持って事業を運営している。

巻頭インタビュー



特定非営利活動法人

母里子ネット

代表理事 汐田千恵子

住所：千葉県茂原市六ツ野3798-3
電話：0475-44-5872

母里子（もりこ）の語源を教えてください

20年ほど前、立ち上げるNPO法人の名前は何にしようか？と考えながら運転していた時、ラジオから温泉の話が流れていました。「お湯の里で岐阜の山奥に秘湯があり、それをもりこの湯とよぶ…」と聞こえ、なぜか頭に残りました。そのことをお世話になってきた方に話すと法人の名前として縁があるのではないかと…。母と子供は関係するし造語ですけど「母里子」と名付けました。人の生き方もそれぞれの中、温かみのある人生でありたいとの想いも込めて名付けました。

重症心身障害者を支援するGHを立ちあげた想いを教えてください

長生郡市のこの地域で障害者支援に携わっている人達と、当事者とその家族が集まり「GH



自然豊かな茂原市で生活介護事業所「デイサポートセンター母里子」を運営している。



汐田さんのピアノに合わせてレクが行なわれていた。下ではパンケーキを誕生日会で焼いていた。

をつくろう会」を立ち上げました。親亡き後に残される子供達のことを考え、安心出来る生活の場が必要だとの思いが強くあり、毎週末協議や勉強会をして交流を深めていきました。当時は空き家があったら内覧してイメージを膨らませ親子で頑張る心意気でした。最近では親御さんの考え方も変わり、GH希望者の年齢が下がってきています。

そして、1棟目に年齢が近い20代男性4名が暮らす、2階建ての「かたつむりホーム（茂原市）」が出来ました。始めた当初は利用者が抱える「一人で寝れない。待つことができない。自分の事をわかってくれない。まわりがうるさい」などの課題を解決するために、職員達と夜中まで、何度も話し合いを繰り返しました。

手探りの支援から数年が経過し、引越すことになり、平成29年に「そらまめホーム（長

長くかかわっている入居者の変化はありますか？

加齢と共に発熱の回数、咳や痰の状況、何より嚥下機能の低下など、確実に機能維持の難しさが見えています。一方で往診医の定期訪問や訪問系の連携により生活が成り立ち、ようやく形ができてきている場面もあります。

入居者の変化は家族の変化でもあります。法人内で連携する看護師対応と毎日の世話人が変化を見逃さない目線と共にGH生活を維持しています。

生活介護「母里子」に通ってくる人達の様子はいかがですか？

「みんな一緒に元気に！」だったはずが30歳くらいを境に変化がみえてきます。医療面でケアが増える人、精神的な不安定さが出る人、こだわりが強くなってくる人、と分かれます。

生活介護の利用者は、区分3から区分6までの人が過半数ですが、日中の過ごし方は個人の特徴によって分ける必要が出てきました。それぞれに対応するために区切られたスペースが必要であり、職員が益々必要になってきています。

親としての思いを教えてください

先日、ご家族の優しさと強さで貫いた、看取りの最期をみせていただくこととなり、胸を打たれました。その方を支え続けた居宅介護事業所の方も本当に頭が下がる支援の姿でした。最後はとても穏やかな笑顔を見せてくれ、納棺はジャケット姿の凛々しい姿でした。享年54歳。「水も食事も欲しがらないから、後は本人の命の限りで見守る。」「点滴は最後がつらいだけだから、自然に逝かせてやりたい。」と、決めた母の強さに涙がこぼれました。

そして、それより少し前に仲間の母親の先輩がガンを患い手術も乗り越え、元気になったと思っていた矢先に、亡くなったとの連絡が入りました。聞けばガン宣告された後、一番気がかり

な寝たきりの息子の入所エントリーをして空き待ちをしていたとのこと、自身が動けるうちに何度か入所先を訪れ託していたことを知りました。両方の先輩母の強い覚悟と託すことの重さに言葉もなく考えさせられました。

地域は老障介護の時期に入っています。足りない資源がまだあります。安心と思える地域作りは40年間、声を上げ続けましたが、もうしばらく時間がかかりそうです。天国の先輩の母達から「しっかりみてるからね」と言われている気がしてなりません。

長生郡市総合支援協議会 医ケア部会

令和3年頃から準備をしていた医ケア児者に関する協議の場が今年度から始まります。先日、市町村はもちろん学校関係者、在宅医療を支えている人や保健師等関係者が集まって顔を合わせました。私達は障害を持った人達やその家族がこの地域で安心して暮らせる仕組みを作っていきたいと考えています。

(代表理事 汐田氏談)

他のGHとの連携はありますか？

近隣に同じ重症心身障害者を支援するGHが少ないので運営上の分からないことや、台風で災害の危険性がある時などに連絡を取り合います。同年代の方とお互いの支援について、ざくばらんに話し合いたいのですが、研修などは年上の方ばかりで、中々機会に恵まれません。この業界は離職率が高いけれど、そのような横のつながりがあれば、もっとこの仕事の楽しい部分を共有できるのではないかと思います。

この仕事を始めるきっかけは何ですか？

最初から障害福祉をやるうと思っていた訳ではなく、大学では別の勉強をしてきました。それまでは強く意識してこなかった



右上のオブジェは母里子の「M」を象っている。静かで雄大な自然の中にゆったりと行む住環境。

のですが、進行性の「てんかん」のある妹が、このGHでどんな生活を送っているのか、気になり見学に行ったら、こんな世界があるんだと衝撃を受け入職しました。

今後どんな制度が必要でしょうか？

職員一人ひとりの質を上げていく為には研修や他機関との連携、他の事業所との情報共有が大切だと思います。そういった時間を確保するためにも、報酬単価を上げて、職員を増やせばと思います。重症心身障害の方、医療的ケアの必要な方がこれからどんどん増えていく中で、うちの事業所だけでなく人員は常に足りない状態です。この仕事が好きで誇りを持って働いてくれる方が増えて来てくれることを心より望んでいます。

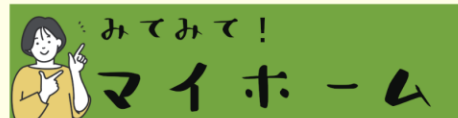
(そらまめホーム岡崎氏談)



大型の車いす用に広く間取りが取られている。爽やかな笑顔のGH管理者の岡崎さん。

母里子ネット

母里子ネット
そらまめホーム



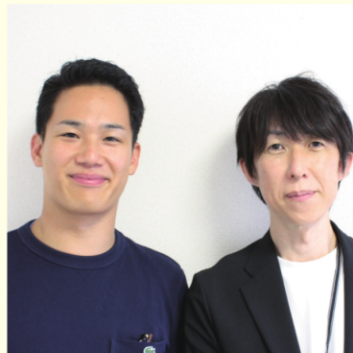
Beans 本八幡
 かん たけ しん や ふく しま よし ひろ
寒竹真也 福嶋美宏

住所：市川市本八幡3-8-10

ローズガーデン矢澤

TEL：047-301-6930

事業所について



左が(株)ウエリオsocial works代表寒竹氏。
 右がBeans本八幡施設長兼サビ管の福嶋氏。

令和5年の4月、JR本八幡駅より徒歩2分の好立地のワンルームマンションを使用し、日中サービスマンションを営業しました。部屋は27居室あり、定員は20名と短期3名です。まずは地域で求められているGHをGH等支援ワーカーに聞いて回り、自分が利用者として住みたい条件も考えてみました。それは、24時間支援が受

入居者の支援の内容

けられる、駅から近い立地、医療的なサポートを受けられる、ワンルームタイプ、といった事です。そこから、精神の病気で支援を必要とする人達に、日中も安心して過ごせる住まいを提供したいと思い「Beans本八幡」を開設しました。

入居者の平均支援区分は3・8です。諸事情で他GHを退居された方、退院時に住まいが探せなくて入居した方などが住まわれています。殆どの方が何らかの形で医療との繋がりが必要な方で、常勤の看護師が勤務していることや医師が週一回訪問し、希望者が医療相談を受けられる点は皆さんの安心感につながっていると思います。医師は児童発達心理を専門とする公認心理師で、内科に関する相談や必要に応じて認知行動療法を行います。住まいはワンルームタイプですが、利用者の様子が毎日リアルタイムで分かるように工夫しています。毎朝ラジオ体操を実施したり、訪室してバイタルを測定しています。食事時間は共有スペースを利用します。朝・昼・夕食の時間は大事にしています。職員1人に利用者3人が

担当してもらい、週に1回は本人の部屋でゆっくり話を聞き、月に1度は個別支援計画の振り返りをサービスマンションと一緒に行っています。これは、職員と利用者が同じ方向で進んでいくうえで、とても大切な時間と捉えています。

日中の支援として、通院に付き添ったり、買い物と一緒に رفتったりしています。就労希望者に対して、ハローワークに同行したり履歴書を書く手伝いをすることもあり。GH以外の場所を職員が知る機会ともなるため積極的にを行っています。そういった日常生活を共に過ごすことで、職員とのコミュニケーションが良好で良い関係が築かれています。

今後の課題とやりたい事

Beans本八幡は立地もよく職員とのコミュニケーションが取れるので居心地がいいのか



駅前の好立地。寂だった建物を一棟GHに。寒竹先生は、児童発達心理専門の小児科医です。

GHでの支援の先に一人暮らしを実現することが難しいと感じています。開設して一年半なので、そこが今後の課題です。一人暮らしへの具体的目標を持っていけるようにこれからも支援をしていきたいです。



利用者のお部屋を拝見することに。普通のワンルームマンションの造り。喫煙スペースもあり。

スタッフの採用・定着に関しては開設当初の方針を変えずに丁寧に行っていきたいと考えています。まずは、福祉業界での経験や志望動機に加えて、年齢や価値観が全く異なる他のスタッフに対して敬意をもてるお人柄などを面接の際に確認をさせていただきます。そして、休日数やお給料などの労働条件を整えることで、長く働いていただける環境を作れるようにしています。優しさを持った優秀な支援者が長期的にご勤務してくれる法人を作り、精神障がいをもった方の安定した生活を今後も支えていけたらと思っています。

利用料金

家賃：5万6千円

水光熱費：使用分量（各居室に個別メーター設置）

食費：朝200円、昼450円、夜600円

グループホームのHPは...

こちら⇒



きとあいらく 起努逢楽

各圏域を奔走するGH等支援
ワーカーを紹介するコーナー

印旛圏域	仁平靖子	やすこ
海匝圏域	菅谷和史	かすみ
香取圏域	来栖綾子	あやこ

印旛中核地域生活支援センター
すけっと 仁平靖子



今年度より、障害者グループホーム等支援

ワーカーに配属となりました仁平靖子です。これまで、児童関係の仕事をしていました。その中で乳児院での経験もあります。乳児院に入所する子ども達の中には、知的障害や精神疾患のため子育てが出来ず生まれて直ぐに入所となる赤ちゃんもいます。しかし親子面談の際には、笑顔で我が子と写真を撮っている姿を見て、こういう世界があってもいいのかもしれないと思いました。

私は障害者グループホーム等支援ワーカーとして仕事をしていく中で、乳児院と障害者グループホームには共通点があると感じました。それは、障害者

グループホームも乳児院も家族と離れて生活していますが、入居されている方にとっては唯一安心出来る場所であり、家族も安心していられる場所だからではないでしょうか。

私は障害者グループホームで入居されている方と家族が笑顔で生活が出来るよう環境作りの支援が出来たらと思います。

中核地域生活支援センター海匝ネットワーク 菅谷和史



今年度より海匝圏域担当の菅谷です。趣味は野球・サッカー観戦です。この原

稿を書いている間はパリオリンピック期間中なので、日本選手の活躍にパワーをもらっています。

そんな私ですが、昨年度までは知的障害者の入所施設で支援員として勤務していました。相談支援業務は初めてなので、グループホームの事や地域生活支援を日々勉強しております。まだまだ至らない点があります。皆様との良い繋がりを

取り組んでいきたいと思っています。宜しくお願いします。



印旛圏域GH概況

介護包括型 GH 数：190棟
日中サービス支援型 GH 数：13棟

海匝圏域GH概況

介護包括型 GH 数：68
日中サービス支援型 GH 数：0

香取圏域GH概況

介護包括型 GH 数：49棟
日中サービス支援型 GH 数：1棟



中核地域生活支援センター海匝ネットワーク（海匝圏域）
香取障害者支援センター（香取圏域） 来栖綾子

今年度より海匝圏域・香取圏域の2圏域を兼務する事になりました。来栖です。

これまで、重症心身障害児者の入所施設で、入居者への直接支援をしていました。GHWになり、医療的ケアのある障害者が入居できるグループホームを増やしていく活動を担当しています。これまでの経験が少しでも役立てられたらと思います。まだまだ分からない事ばかりで、目の前にある課題に取り組んでいく事で精一杯ですが、一つ一つ丁寧に向き合っていて、学びを深めていけたらと思っています。どうぞ、よろしくお願います。

きんしゅうこうき 編集後記



今回は「母里子ネット」、「Be's本八幡」へ取材をさせて頂きました。どちらのGHも入居者の方とのコミュニケーションを非常に大切にしている印象を受けました。どんな入居者の方であつても、日々の小さな工夫の積み重ねや、システム作りにより入居者の想いを支援に反映させていく。それが支援の基礎になると改めて学ぶことができ、同時に私達の仕事のあり方にも通ずるもので身が引き締まる思いがしました。（君津圏域山口）

こんごう だいじ 今号の題字



社会福祉法人いちばん星

チャレンジ国分 河津天太さん

チャレンジ国分で、毎日お仕事をしています。動物の絵を描くのが好きで特にゴリラが好きです。みんな、遊びに来てね！





千葉県障害者グループホーム等支援事業連絡協議会
発行 / 千葉県障害者グループホーム等支援事業連絡協議会事務局
TEL / 0478-79-6919
MAIL / r-aoya@rosario.jp
発行日 / 令和6年(2024年)9月21日
編集 / 連絡協議会広報班

暮らしを拓く
53号